

令和5年度 富良野市廃棄物減量等推進審議会 議事録

日時 令和6年2月19日（月）午後1時30分～2時50分

場所 富良野市複合庁舎4階 議会会議室

出席者 〈委員〉

高橋穰二、寺島聡、井出紳也、鎌田勲、渡辺寛子、狩野洋子（6名）

〈欠席委員〉

佐藤健治、関野孝子、小野裕史（3名）

〈事務局〉 市民生活部長 山下俊明、環境課長 高橋秀文、  
環境係長 山岡鶴生

1.開会（進行：高橋課長）

2.辞令交付

3.市長挨拶

本日はご参集いただきましたこと誠にありがとうございます。

辞令交付させていただきましたが、皆様の任期の中でご活躍いただきますことをご祈念とお願いを申し上げます。

当審議会の一般廃棄物の減量及び再利用の促進に関する審議は循環型社会の形成や、環境保全に対する重要な取り組みであります。有意義な審議に努めていただければと思います。

環境問題・廃棄物の減量は全国的な課題になっている状況の中で、令和6年2月16日の中央環境審議会での食品環境資源の再生利用等の促進に関する基本方針の改定が環境大臣から答申が出されております。食品循環資源の再生利用等の促進の基本的方向、関係者の取り組みの方向あるいは目標、施策の推進体制が具体的に示されています。簡単にいえば食べ残しが発生していることから、食品の大量廃棄につながっているため、改善していくべき取り組みとして示されたものであります。本市でのごみ処理の課題はさまざまありますが、一点目として人口問題にも関係している少子高齢化社会の中で次の取り組みをどういった方法で進めていくのか、また、今年の1月1日に起こった大地震のような大規模な災害発生時の大量の災害廃棄物に対する備えをしなければなりません。

また、富良野市ではゼロカーボンシティの宣言をさせていただいていますが、

脱炭素社会に向けた取り組みも視野に入れて、持続可能な社会づくりということにも視点が重要だと考えております。

特にごみ減量に加え、プラスチックごみの対策も重要になってきています。いわゆる循環型社会の実現だけでなく、脱炭素社会等の視点も持って将来にわたって人々が生き生きと暮らせる街の実現への貢献もこの審議会の中でも必要になります。また行政としてもこうした取り組みが大事になっています。

プラスチックごみと食品ロスは地球温暖化に密接な関係があります。原料が石油であるプラスチックは燃焼に伴って多くの二酸化炭素が排出されるためプラスチックごみの減量も視点が重要になります。市で製造している RDF も再生可能エネルギーという見方もありますが、つなぎの部分でプラスチックが使われている点、固形燃料ごみとして排出している衣類にもプラスチックが含まれるということがあります。これらの再生方法や、処理・対策についても考えていかなければならない複雑多様化している世の中です。

委員の皆様にはご苦勞をおかけいたしますが、趣旨をご理解いただきましてご活躍、ご検討いただきますようよろしくお願いいたします。

4.役員選任（事務局案承認） 委員長：佐藤健治 副委員長：高橋穰二

5.委員・事務局自己紹介

以降、高橋副委員長が進行

6.議事 廃棄物の処理及びリサイクル事業概要について

事務局より説明

(寺島委員) アライグマは最近多く捕まっているが、一時保管場所の容量やどの程度の頻度で南富良野へ運んでいるのか教えてほしい。

(事務局) 業務用の冷凍庫に一時保管している。以前は年に 3 回から 4 回程度の処理だったが、令和 4 年度から多くなってきている。5 年度は毎月のように南富良野へ運搬している。今年はアライグマだけでなくネズミの持ち込みも毎日とっていいくらいある。

(寺島委員) アライグマは年々増えて行っていると思う。対策を含めお願いしたい。

(高橋委員) 4 ページの (3) 別項参照とはどれの事か。

(事務局) 6 ページの (6) ごみ処理の基本体系です。文言整理します。

(高橋委員) 11 ページ (1) 中ほどのリサイクルセンターの視察 7 団体とある

が、富良野市民なのか以前は多かった道外とかの市町村なのか。

(事務局) すべて富良野市外です。他自治体の議会議員が多い状況です。

(高橋委員) 21 ページ (3) 富丘埋立処分場の残余量が 2,567 m<sup>3</sup>とのことだが、以前施設の更新の話の中で令和 10 年度を予定しているといっていたがその後どうなっているのか。

(事務局) 年間の埋め立て量がおおむね 500 m<sup>3</sup>前後で推移している。あと 5 年程度、令和 10 年度で満量になるとおもっている。現処分場を整備する際には 2 期計画ということで拡張する予定があったため、現在拡張に向けた内容づくりを今年度行っている。来年度、国の交付金の関係等の準備を進めていく。令和 11 年度末から拡張した処分場でおおむね 15 年程度延命できると考えている。

(寺島委員) プラスチックの分別について以前話していたがどうなっているのか。

(事務局) この 2.3 年で変更する予定はないが、埋め立て処分場について国から交付金を受けるにあたり、プラマークの付いていないプラスチックの再資源をやりなさいという項目があるので、いつからとは言えないが、将来的にはやらなければならない状況にある。具体的になればこの審議会にお諮りすることになる。

## 7.その他

・使用済み紙おむつのリサイクルについて

栗田工業のホームページ掲載、使用済み紙おむつのシステム動画の視聴  
次年度審議会時に現地での施設見学。7 月頃に見学と審議会を合わせて実施。

・ネパール国、カトマンズ市 富良野市視察

3 月 18 日から 20 日にかけてネパールの首都カトマンズ市長が富良野に来る。  
平成 14 年市職員がネパールでごみのリサイクルについて講演をした事があり、それが縁で今回、富良野市のごみリサイクルについて視察に来ます。

富良野市のごみリサイクルの手法をカトマンズ市で取り組みたいという事で、実際に富良野でどういった事をやっているのか、ごみの分別の取り組みをどう行ってきたか等 3 月 19 日に座談会を開催するので時間があれば出席して頂きたい。後日、案内をお送りします。